

情けない総裁選にお詫び

～道州制を通じて再生問う～

◆政策なき「安定」はない

今回の自民党総裁選挙を振り返って、所属議員として、恥ずかしい気持ちでいっぱいです。安倍晋三前総理の不可解な辞任の果てに、麻生派以外の派閥の領袖が一丸となって勝ち馬に乗ろうとしたさもしい構図の総裁選。参議院で与野党が逆転する不安定な政局の中で、有権者の皆様に率直にお詫びを申し上げます。

私は安倍前総理の政治姿勢を支持していましたが、精神面や肉体面でどのような理由があれ、日本の代表たる人間があのような辞め方をすることは許されないと思っています。

さらに福田康夫候補の擁立には違和感を覚えました。自民党の中で、安倍前総理と対極の政治姿勢を持つ福田総理に、8派閥が政策の検証もなしに雪崩を打って支持を表明したことは問題です。私が所属する伊吹派が早々に福田支持を決定したことにも、釈然としない思いでした。

そんな中、私の携帯は鳴り続けました。

「安定のために我が派の福田を頼む」

「福田になだれを打っては自民党は終わりだ。ぜひ麻生を」

私は最終的に「麻生太郎」と書きました。当初、130票あれば、と言われた麻生票が197票までいったのは、せめてものバランス感覚が働いたのだと思います。

正直、自民党には失望しました。一方で、憲法改正、テロ特措法への対応などでは、自民党が民主党より勝っているとも思います。

特に私のライフワークである道州制は、前回の民主党のマニフェストからは消えてしまいました。道州制は、議会のあり方、行政のあり方において、政治家にも官僚にも自己犠牲を伴う究極の構造改革です。

9月21日に自民党本部で開かれた総裁選公開討論会で、私は福田候補に道州制の是非を尋ね、「やるべきである」とのはっきりとした回答を得ました。

私は今後、この政策を通じて、自民党が本当に再生できるのか否かを問うていきたいと考えています。

厚生労働大臣政務官
衆議院議員

松本健太



「舛添大臣の“補佐官”として政治主導で厚生労働省を変えていきます！」と松浪ケンタ。|| 厚生労働省の大臣政務官室

◆改めて厚生労働大臣政務官を拝命

福田政権発足にともなって、改めて厚生労働大臣政務官を拝命しました。参議院で与野党が逆転する中、厚生労働行政は今国会の主戦場となることは必至です。舛添大臣の“補佐官”として、政治主導で厚生労働省を改革して参ります。

大臣政務官、福祉と道州制を語る!!



製薬業界トップと会談

日本のリーディング産業である製薬業界のトップと相次いで会談。第一三共の森田清会長、アステラス製薬の青木初夫会長＝写真＝と新薬価制度について懇談。この機会に道州制の必要性も語らせて頂きました。

三師会会長と懇談

厚生労働大臣政務官として、医師会、歯科医師会、薬剤師会の会長と相次いで懇談。医療制度の現状や問題点について、意見を交換しました。(写真は、日本医師会の唐沢祥人会長と)



医事懇話会で講演

医事懇話会(大阪府下の医師による勉強会)で、講演をさせて頂きました。療養型病床の転換問題や終末期医療について、専門家の皆様と突っ込んだ意見交換をすることができました。

